

令和4年度事業計画

1 基本方針

国内、県内共にその経済・景気の動向について、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況がなお続く中で、その動きに弱さや足踏みがみられるとし、先行きについても景気が持ち直していくことが期待されるが、コロナ変異型のオミクロン株(更にはその派生型)の出現、感染拡大による影響や経済活動における原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要があるとしている。厳しさを増すロシアによるウクライナ侵攻もリスクの一つとしてみている必要があると捉えています。

令和2年度そして令和3年度も、全期間にわたってその影響を与え続けたコロナは、変化の兆しを見せつつも残念ながら新たな年度のスタートにあってもなお収束の気配を見せるには至っていません。センター活動にとっては早い時期での終息と活動が進められる経済の回復を期待しつつも、実際にはなお暫くの間我慢の活動を続けていくことが求められるのかと捉えています。

令和2年の国勢調査による高齢化率は28.6%と前回調査時点から2%の上昇となりました。超高齢化社会という時代、一方で平均寿命、健康寿命の伸びを背景とした人生100年といわれる超長寿社会を迎える我が国にあってこの間様々な社会づくりの計画が示されてきました。「生涯現役社会」「一億総活躍社会」「エイジレス社会」等々、全ての年代の人々がその特性と強みを生かし、経済社会の担い手として活躍できる環境整備が必要との考え方であり、高年齢者が地域で働ける場や社会を支える活動ができる場の拡大等シルバー人材センター事業の役割や期待が示されるものとなっています。

シルバー人材センター事業のこうした期待や役割に添えていくために、同時に私たちセンターの活力の維持と事業の活性化に向けて、改めて組織確立のための「会員の増強」、「就業機会の拡大」の基本の作業を核に据えた取り組みを進めなければなりません。

長く会員数2000人超を維持してきたセンターですが、昨年6月時点でこの数字を下回る事となってしまいました。まずは2000人会員への復活そして上乗せの作業となりますが、様々な制約をもたらしたコロナも少なからず影響している状況にあります。コロナの早期終息への期待はなお望み薄の状況にあり、改めて様々な手を打ち出していくことが求められています。従前の形にとらわれない新しい発想での会員獲得の方策とともに、既存会員の退会抑制の方策にもしっかりと目をつけて求められる作業に力を注いでまいります。

同時に事業の維持発展に大きく影響してくる「就業の場の確保・拡大」の取

組も、会員の就業希望への対応にとどまらず、新たな会員をセンターに引きつける重要な役割を持つものとなります。コロナ感染拡大による経済活動への大きな影響は同じ形でセンター就業活動面にも影響を及ぼすものとなりました。更には安定的かとみられていた公共受注業務にも厳しい動きが出てきています。今こそセンター活動の基本となる課題に意識を持って取り組んでいく時としなければなりません。改めて原点に返って会員の確保・拡大の取組とともに就業の場の確保・拡大の基本の作業に力を注いでまいります。

ほぼ2年に亘ったコロナは、会員の獲得、就業の場の確保の活動にとどまらず、センターの様々な活動に大きな影響を及ぼすこととなりました。《自主・自立 共働・共助》として会員の繋がりを基とするセンター活動であり、地域班活動、地域見守り（児童安全見守り）活動等のボランティア活動、親睦や健康づくりの活動等々、コロナの収束の動きを見極めつつ再開の時期を探り、同時にコロナの時代の新しい生活様式を踏まえ、そのあり方、形づくり等研究を進め、会員が繋がり、地域と繋がる活動の更なる充実に向かってまいります。

今年、センターは設立から42年を数えます。新型コロナウイルスの感染拡大という未経験の厳しい環境変化の中ですが、変化を乗り切りウイズコロナ、アフターコロナの時代の新たな活動の形を探り、作っていかねばなりません。同時に、センター事業運営に大きな影響を及ぼすこととなる間近に迫る消費税における「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」への対応も本腰を入れて知恵を絞っていかねばならない大きな課題となってきます。

様々な課題の多い新しい年度となりますが、会員の主体的参加と活動で運営されるセンターとして、「自主・自立、共働・共助」の事業理念を改めて確認し合うとともに、会員皆が組織とその活動に愛着と魅力を持てるセンターとなっていくよう、同時に地域に認められ、求められるセンターとなっていくよう、会員の皆様とともにセンター42年目の活動に更なる努力を傾けてまいります。

2 事業計画

令和4年度センター運営の基本方針に基づき、次に掲げる項目についての取り組みを進めてまいります。

(1) 会員の拡大と意識の向上

組織の財産は、様々な知識、技術、経験を有する会員であります。基本の作業となる会員の確保・拡大に向けての様々な取組とともに、センター会員としての組織への帰属意識や連帯意識の醸成が求められます。

① 入会案内ツールの見直し等新たな会員募集方法の取組

- ② 市広報、新聞折込チラシ等を活用しての入会の案内とPR
- ③ 会員による入会希望者の紹介運動等入会促進活動の推進
- ④ 移動入会説明会、女性限定説明会の充実
- ⑤ ホームページ活用による入会ステップの拡大とPR活動の推進
- ⑥ 新規入会者研修から始まる会員研修の推進と充実
- ⑦ 意識向上につながる媒体の作成や情報の発信
- ⑧ 地域班活動や職群班活動を通じての会員意識の醸成
- ⑨ 会員が長くセンターに在籍できる仕組み（長期在籍会員、高齢会員、夫婦会員等への処遇対応策等）の確立に向けた研究

(2) 就業の拡大、就業活動の支援と適正就業への取り組み

基本の作業となる会員の求める働く場の拡大、就業ニーズ実現への支援の取り組みとともに、就業に対する意識の醸成と培ってきた能力をさらに磨きあげていく作業はセンターに求められるところとなります。

- ① 追加受注や新規就業に向けた開拓活動の強化
- ② タブレット活用手法による就業開拓(PR活動)の推進
- ③ ホームページの活用促進と情報発信の充実
- ④ センターができる新たな事業の調査、研究と取り組み準備
- ⑤ 高齢会員向け就業の研究
- ⑥ アクティブシニアへのイメージアップの取組
- ⑦ 就業相談窓口の充実による就業会員及び就業希望会員への支援
- ⑧ 出張相談や地域拠点型就業相談会の拡大、充実
- ⑨ 就業時研修の充実と就業活動等に必要な各種研修・講習の効果的実施
- ⑩ 職群班活動の活性化を通じての就業意識の徹底やサービスの向上
- ⑪ 会員就業における法令合致、適正就業への留意
- ⑫ 公益財団法人いきいき埼玉（県連合）の実施事務所としての一般労働者派遣事業(シルバー派遣事業)及び有料職業紹介事業の運営と展開
- ⑬ 派遣事業(シルバー派遣事業)拡大に向けた営業等取り組みの強化

(3) 安全の徹底と健康管理

シルバー事業の根幹をなす「安全対策」と「健康管理」は、組織を挙げて取り組む課題となります。事故0を目指し、会員が元気で生き生きと活動できる施策の展開が求められます。

- ① 「第6次安全対策基本計画」に基づく各種施策の推進
- ② 安全確保と事故防止に向けた安全巡回の実施
- ③ 毎月発行の安全ニュースや安全標語を活用した安全・健康意識の醸成

- ④ 他委員会、地区長との共同・連携による安全就業・事故防止の推進
- ⑤ 安全就業、健康管理のための各種研修、講習の充実と効果的实施
- ⑥ フレイル予防活動の推進、充実と健康サポーターの育成
- ⑦ 健康・安全カードの活用による会員の健康、安全管理の推進
- ⑧ センター車両事故防止に向けた取り組みの強化
- ⑨ 特定業務（高所作業を伴う業務等）就業会員に対する健康状態の把握
- ⑩ 高齢就業会員の安全対策の研究

(4) 社会奉仕・地域貢献活動の展開と展望

センター事業の新たな柱としての社会奉仕・地域貢献の活動について、その展開とともに好ましい内容の研究と確立が求められます。

- ① 地域班活動としての地域見守り（児童見守り）活動や地区ボランティア活動の推進、活動への支援と統一ボランティア活動の実施
- ② 市等地域施策との連携と協力
- ③ 社会奉仕・地域貢献活動のあり方の研究
- ④ 地区ボランティアのグループ化に向けての研究
- ⑤ 地域班活動活性化への支援と地域班だよりを活用した活動情報の効果的発信

(5) 成年後見事業の展開

成年後見事業の法人事業としての確立と定着に向けての作業とともに、事業拡大への取り組みが求められます。

- ① 法人としての組織体制の確立と充実
- ② 成年後見事業のPRの促進と相談・申立て支援体制の充実
- ③ 市等他機関との連携とネットワーク構築に向けた取り組み
- ④ 後見実務の的確な遂行と新たな受任に向けた取組の推進
- ⑤ 事業を担う担当会員のフォローアップと後継会員の計画的育成

(6) 組織運営等

公益社団法人としての的確な組織運営を確保しつつ、同時に会員にとって魅力あるシルバー人材センター活動を展開していくことが求められます。

- ① 公益社団法人としての経営(組織運営、財政運営)の確立
- ② コンプライアンスの確保とガバナンスの確立
- ③ 新しい生活様式の下での活動の形等の研究
- ④ 情報発信機能としての会報の更なる充実
- ⑤ センターの魅力発信等センター活動のPR